



▶▶ 能代にある事を強みに

変化する市場を先読みし、玄関ドア事業を成功させたことで和室需要低下の危機を乗り越えた同社だが、腰山社長はある思いを抱えていた。

「能代市で扱われる代表的な樹種はやはり秋田杉で、当社の「スベリオル」「木鯨」の樹種としても秋田杉を扱っています。秋田杉を勧めたい気持ちはありますが、他の樹種と比較すると柔らかいため傷がつきやすく、耐候性も低いため、現状では、受注の多くは外材を使用したものです。能代に生まれ、能代に育ち、当たり前のように触れて来た秋田杉を、自信を持ってお勧めするには何が必要かを思案していました」。

こうした思いから、2020年、秋田杉の強度、耐候性を向上させる研究開発に着手する。

この開発事業は、活性化センターの中小企業みらい応援ファンドも活用して進められた。秋田杉の持つ美しさをそのままに、玄関ドアに使用出来る強度と耐候性を実現するために、県立大木材高度加工研究所と県産業技術センターの協力を得て、課題をクリアする独自の技法を確立。商品開発に際しては、活性化センターの知財・デザイン支援課によりデザイナーの紹介を得た。2022年1月には防火設備としての認定を取得し、全国初の秋田杉圧密材を使用した木製玄関ドアの完成へ向けて取り組んでいる。



①質感のある仕上がりにこだわり、試作を繰り返した。
②豊富なカラーバリエーションを提案。
③圧密加工前(右)と加工後(左)の秋田杉。

▶▶ 次の世代へ

秋田杉製玄関ドアの開発を託されたのは長男の腰山幹太氏。大学卒業後すぐの入社であったが、持ち前の行動力により人脈の開拓に努め、新商品開発にあたっては全国の工務店へのヒアリングや、webでの情報収集を精力的に行う。また、デザイナーとのやりとりでは、そうして収集した様々な情報を分析し、意見を出し合いながら、カラー展開やラインナップの検討を主導している。

今後の展望について、腰山幹太氏はこう語る。「自分は業界の中ではかなり若く、コシヤマは大消費地である首都圏からは遠い秋田という地にありますが、そうした条件の中でもやっていけるんだという事を発信していきたいです。また、曾祖父が創業し、祖父・父と蓄積されて来た技術や知識を活かし、自社ブランドを世界へと広めていきたいです」。



初代から脈々と受け継がれた技術と感性が、現代の住まいに活かされていく。

株式会社コシヤマ

経営探訪

木材が生きる高性能玄関ドア

木都能代で代々受け継がれた技術をさらなる高みへ

▶▶ 市場変化への対応により獲得した独自性

1940年、家具製作所として能代市に創業された株式会社コシヤマ。2代目は和室建具を手掛けていたが、3代目となる腰山真司現社長はライフスタイルの変化による和室需要の低下を肌で感じ、和室建具以外の事業の必要性を見越して、1998年に木製オーダーメイド玄関ドア「スベリオル」と同引き戸「木鯨(もくげい)」の開発に着手した。

「屋外の環境に晒され続ける玄関ドアや引き戸の開発には、和室の建具とは異なる、反りや歪みを防ぐ工夫や技術が必要でした」と腰山社長は話す。開発条件をクリアして販売した後も、ドアを設置した日本各地の異なる気候条件により様々な不具合が発生したが、ひとつひとつ丁寧に顧客の声

とその不具合に向き合い続けた。

こうした経験が他社にはないノウハウとなり、さらなる研鑽を重ね、高水準の気密性・断熱性を実現。同商品は「2020年新省エネ基準」適合商品として認定され、現在の同社の基幹商品のひとつとなっている。



オーダーメイド木製断熱玄関ドアの「SUPERIOR(スベリオル)」(左)と同引き戸「木鯨(もくげい)」(右)。

能代の地から木製玄関ドアの魅力を発信していきます。

代表取締役 **腰山 真司**
こしやま しんじ



株式会社コシヤマ

〒016-0171 秋田県能代市河戸川字大須賀100
TEL.0185-54-3214 FAX.0185-54-3215 <http://www.wk-koshiyama.co.jp>
創業/1940年 資本金/1,000万円 従業員数/14名
業務内容/木製建具・木製サッシの製造・販売

